資料２

令和２年度の事業評価について

（実績値：３月31日時点）

指標区分	業務区分	項目	R２ 当初目標	R２ 目標(補正後)※	R２ 実績	R２ 達成状況	R２ 自己評価	R２ 外部評価	参考 昨年度実績
アウトプット	情報発信	情報発信件数	700件	583件	779件	◎	A		1,362件
		＜備考＞ ・発信件数の内訳（日本語575件、英語204件）							
	コミュニティ形成・連結	コミュニティ形成イベント件数	160件	133件	135件	○	A		185件
		海外WS開催数	1回	1回	1回	◎			0回
		＜備考＞ ・コミュニティ形成イベントについては、他機関等との連携／協力を強化して目標を達成 ・海外渡航制限下でもUSJの協力を得て海外WS「Next GEN JAPAN」を実施							
	プロジェクト創出	人材育成プログラム開催数	6回	5回	16回	◎	A		34回
		オープンイノベーションプログラム開催数	10回	8回	8回	○			15回
		ピッチイベント開催数	**55回**	**46回**	**47回**	○			68回
		OSAP 新規参加企業数	20社	ー	20社	◎			20社
		＜備考＞ ・高校生／大学生向け人材育成プログラム（GYAO／GEIOT）の実施に注力し目標を達成 ・ピッチイベントについて、共催件数が減少したが、主催件数を増加させて目標を達成 ・OSAPについて、別途Alumni活動を強化（コロナ対策事例集約／PR支援、海外展開支援等）							
	プロジェクトのショーケース	国際会議開催回数	1回	－	1回	◎	A		1回 ※H30実績
		国際会議への参加者総数	700名	－	954名	◎			757名 ※H30実績
		＜備考＞ ・京阪神で活動する海外アクセラレーターによるパネルディスカッションを実施 （Plug and Play Japan、Rainmaking Innovation Japan、500 Startups） ・インターナショナルピッチコンテストを実施（分野：ｽﾏｰﾄｼﾃｨ、ﾍﾙｽｹｱ、ﾌｰﾄﾞﾃｯｸ） ・国内外スタートアップ13社と関西の大企業等との商談会を実施 ・学生ベンチャーによるピッチや、大学の技術シーズと企業のマッチングも実施 ・オンラインイベントプラットフォーム 『eventhub』を活用 （登壇者、参加者がイベント前後の約2ヵ月間、交流・マッチングできる機会を提供）							
アウトカム	情報発信	FB「いいね」純増数	200件	167件	100件	×	B		360件
		メルマガ登録者純増数	500名	417名	379名	×			1,705名
		Linkedinフォロワー純増数	300名	250名	410名	◎			643名
		＜備考＞ ・情報発信件数について、一部目標が未達 ・その他、世界各地のイノベーション拠点で発行される『Startup Guide』日本版にOIHが掲載							
	コミュニティ形成・連結	**OIHパートナー登録者純増数**	**33者**	**28者**	**44者**	◎	S		43者
		＜備考＞ ・ネットワーク拡大に注力した結果、当初目標を大きく上回った ・純増数40者のうち7者が外資系事業者、残り33者が国内事業者 （下線部の１社アストラゼネカを核とするプラットフォーム『i2.Jp』にOIHの仲介で６社が参画）							
	プロジェクト創出	**プロジェクト創出・推進支援件数**	**60件**	**50件**	**54件**	○	A		55件
		資金調達額	**16.6億円**	**13.8億円**	**43億円**	◎			52億円超
		海外事務所開設／提携件数	**1件**	**1件**	**1件**	◎			1件
		＜備考＞ ・資金調達実績の内訳：GI27億円、OSAP16億円 ・海外事務所開設：支援企業（インテグラル・テクノロジー社）が９月に米国進出							
	プロジェクトのショーケース	国際会議への海外からの参加者数	100名	－	124名	◎	A		108名 ※H30実績
		メディア掲載数	15件	－	27件	◎			13件 ※H30実績
		＜備考＞ ・京都／大阪／神戸の３市長が挨拶を行うなど京阪神連携の効果でメディアの注目度が向上 ・オンラインで開催した結果、海外からの参加者に特に好評 ・「京阪神エリア全体のポテンシャルが理解できた」など称賛の声が多数届いている							

※【目標補正理由】令和２年度は、コロナ禍における緊急事態宣言を受け、大阪市としてOIHを２カ月（4~5月）閉鎖したため、
その影響を受けた業務区分については、目標値に 2／12カ月分を減じた補正を行うものとする。

＜参考＞

【黄色網掛部分】「OIH基本方針（参考資料２）」に記載のKPIと同一の評価項目（3ヵ年目標値を単年度ベースに割り戻したものを当初目標として設定）

【達成状況凡例】◎：当初目標達成、○：補正目標達成、×：目標未達成

【事業評価基準】Ｓ：目標･達成水準を上回っており、特筆すべき進捗状況にある　Ａ：目標･達成水準に到達しており、順調に進捗している
Ｂ：目標･達成水準の到達に向けて、おおむね進捗している　Ｃ：目標･達成水準の到達のために、重大な改善事項がある